

のんびりゆったり
安曇野ぶらぶら
ガイドウォーク

安曇野 あづみの あるく略

NO.4

緑ゆたかな集落景観・ 中萱を訪ねる

～熊野神社と貞享義民の里と～

安曇野市南部の中萱地区。村の誕生は中世にさかのぼり、以来堰（農業用水路）の開削とともに新田が開発され、南安曇地方の農村集落の一角を形成してきました。

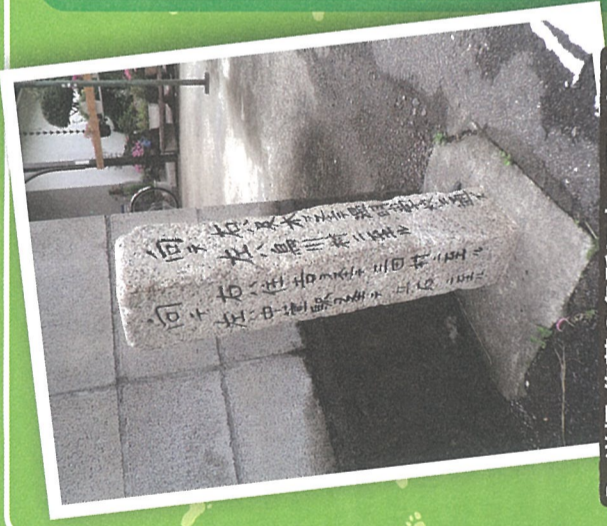
江戸時代の貞享3年（1686）、中萱村の農民を中心に発生した農民一揆「貞享騒動」は松本藩史上に残る大事件となり、主導的立場にあった元庄屋・多田加助はじめ多数の一族・同志が処刑される悲劇的結末となりましたが、加助たちの無念の思いは後世に語り継がれ、その行動に対する顕彰が今もなお盛んに行われています。

中萱集落をめぐる本コースでは、貞享義民ゆかりの場所をはじめ、県下最大級の御船が登場する例大祭を行う熊野神社や、安曇野らしい屋敷林と古民家が連なる農村集落のいまを探訪します。

※平成26年度・長野県地域発元気づくり支援金を受けて作成されました。
※この地図は「安曇野あるく略」の資料として作成されました。
散策の際は歩きやすい服装を心がけ、車などの往来に十分注意し、各自で責任を持って行動してください。
また住宅敷地内などプライベートな空間への立ち入りは、慎んでください。

編集・発行 **安曇野案内人倶楽部**

〒399-8303 長野県安曇野市穂高5971-1(クラフトショップ安曇野内)
TEL: 0263-88-5563 FAX: 0263-88-5565
URL: <http://azumino-guide.com> E-mail: info@azumino-guide.com



B 道標 集落の各所に立っています



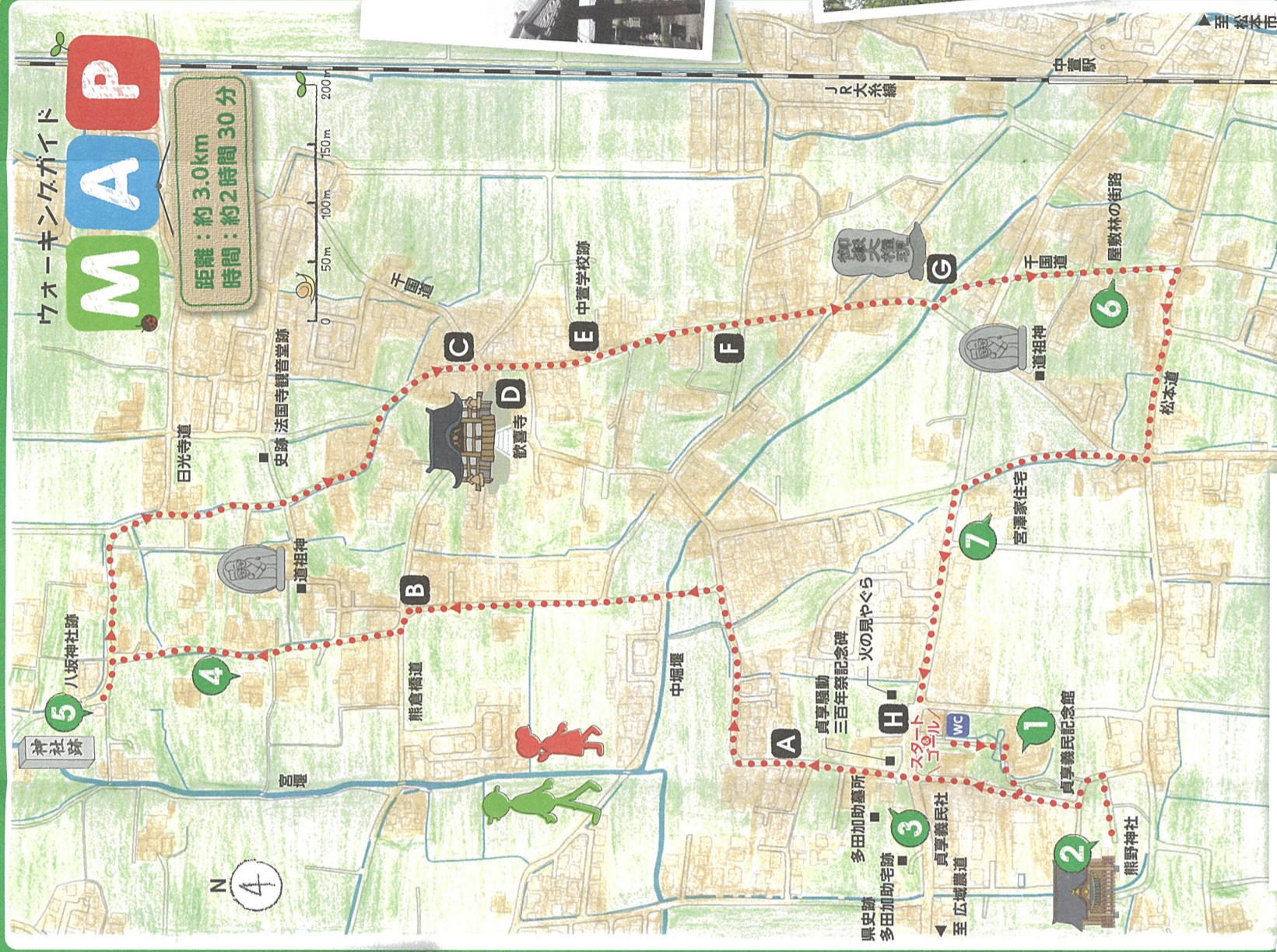
A 道祖神 天保12年(1841)



県史跡多田加助宅跡



H 二十三夜塔と道祖神
[中] 祝言像、明治14年(1881) [右] 握手像、建立年不明



G 御獄大権現



H 火の見やぐら



C 道祖神 文化2年(1805)



D 見石山歡喜寺 腰屋根の装飾に注目



E 中萱学校跡 明治期の学び舎



F 道祖神

1 貞享義民記念館

※入館料：大人300円、中学生以下無料



江戸時代、松本藩内で発生した百姓一揆「貞享騒動」を顕彰する記念館。主導的立場だった中萱村の元庄屋・多田加助の行動をはじめ騒動の経過を分かりやすく解説する立体映像コーナーをはじめ、騒動を含めた当時の農村生活を紹介する展示コーナーなどがあります。

● 貞享騒動

貞享3年(1686)、松本藩内で発生した農民一揆。同年の作柄が不作にもかかわらず、藩は年貢を1俵あたり3斗から3斗5升へ引き上げ決定。周辺諸藩では2斗5升が基準であることに比べ非常に厳しい取立てであり、藩の方針に堪えかねた多田加助ら同志が密議を行い、2斗5升への減免等を求める訴状を提出。計画を聞きつけた藩内各地の農民が呼応したため、決行日には松本城下に1万人にも及ぶ農民が加勢に集まったと言われています。

藩では事態収拾のため、いったんは加助らの訴えを聞き届けたものの、すぐに前言撤回した上に多田加助とその一族、および同志ら合計28名を捕縛、磔・獄門などの極刑に処しました。騒動の後、加助らの訴えた2斗5升への減免は認められませんでした。年貢米の取り決めは元通りの3斗へ戻されたのでした。

2 熊野神社



中萱村の産土神で、紀州の熊野新宮より分霊を受けて創建されました。春日造の本殿および境内社の旧八坂社本殿はともに安曇野市有形文化財指定で、それぞれ17世紀中期と後期の建築とされています。貞享騒動発生前、多田加助が同志らと集まって密議を行ったのが同社であると伝わっています。



● 逆さ杉

境内に残る杉の樹幹。慶応2年(1866)の暴風で倒木しましたが、多田加助の挿した杖が大きくなったものであるという伝説が残っており、加助の逆さ杉とも称されています。

● 御祭神

伊弉册尊(いざなみのみこと)
速玉男命(はやたまのおのみこと)
泉津事解男命(いづみことざやおのみこと)
素戔鳴尊(すさのおのみこと)



3 貞享義民社



貞享騒動から50年を経た享保20年(1735)、多田家において加助ら処刑された一族を祀る祠が邸内に建てられ、明治13年(1880)に同志12柱を合祀して二百年祭を行い、現在地に社殿を造営したのが同社の始まりです。当時は加助神社と称しており、昭和35年(1960)に現在の貞享義民社へと変更されました。

● 多田加助宅跡

長野県史跡

● 貞享義烈碑

安曇野市有形文化財



● 境内の句碑

拝殿脇に俳人柿本芳月の筆による「二斗五升語り伝えよ稲の波」の句碑があります。



● 多田加助の墓

義民社の北側に隣接してあります。

4 旧集落のまちなみ



中萱地区のうち、古くは下中萱村と呼ばれた集落の中心地。屋敷林に囲まれた古民家や土蔵、板塀のある家並みの続く集落は安曇野らしい集落景観を楽しめます。また南北に走る道路は集落の入口で鍵の手に折れており、中世のまちづくりの姿を垣間見ることができます。

5 八坂神社跡



下中萱集落の北に八坂神社がありましたが、明治40年(1907)に境内の秋葉社、八王寺社、天満宮とともに熊野神社に合祀されました。現在同地には双体道祖神ほか、庚申塔、二十三夜塔などの石神石碑が建立されています。

6 屋敷林の街路



向隣に屋敷林の緑豊かな街路景観を持つ狭い路地は、かつて安曇野を南北に縦断していた主要道路・千国道のひとつでした。大規模な道路区画整理などが行われなかったため、現在では古い時代の千国道の様子を偲ぶことができる貴重な存在となっています。

7 国登録有形文化財 宮澤家



明治から昭和初期にかけて建築された主屋と付属建物の合計数棟が国登録有形文化財となっています。製糸業で栄えた旧家で、戦前の和風建築住宅の典型として貴重な存在です。屋敷林を伴う庭の様子も素晴らしいです。(個人宅につき、敷地内への立ち入りはお控え下さい。)

最寄り駅：JR大糸線中萱駅



熊野神社最寄りの駅として、屋根に神社建築の千木・鰹木を模した表飾が印象的です。(彫刻家・小川大系作) 駅舎の傍らには多田加助のレリーフがあります。(彫刻家・小川大系作) 貞享義民記念館前(スタート地点)まで600m、徒歩約10分です。